

DOYOU

さいたま

同友会の三つの目的 / よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす

K O J I M A R I E K O



小嶋理恵子

plusN(大宮南地区会)

【経営理念】

1. 私たちは、公認スポーツ栄養士として、身体作りを通してパフォーマンス向上に貢献します。
2. 私たちは、パフォーマーの身体の声とパフォーマーとサポーターの熱い想いを紡ぎ、明るい未来を育てます。
3. 私たちは、ジュニア時代の充実した栄養教育と実践を通して、食の自律と自立を目指します。
4. よりよい栄養サポート環境を作るために、多くのスポーツ栄養の専門家を育てます。

SAITAMA Smile Women ピッチ2019への参加の際にファイナリストまで残りビジネスアイデア賞を受賞した小嶋氏。そのことがきっかけとなり2020年1月に独立開業します。このコロナ禍において2年連続で売り上げは増加。全国で400人弱しかない日本スポーツ協会・日本栄養士会公認スポーツ栄養士の資格を持つ小嶋氏は今、スポーツ栄養士への期待は高まっていると感じています。同友会に入り、経営指針を作成したことにより、仕事を選択する上での大事な軸ができ、経営計画を立てる大事さを学びました。(P7へ続く)

2022 - 5 May
VOL. 528 毎月1日発行

特集

《2021全研》記念講演報告
お互いを尊敬しあえる民主的な経営
～開かれた経営からの共育ち～

<https://www.saitama.doyu.jp>

社長の
学校

《2021全研 記念講演》

お互いを尊敬しあえる民主的な経営

～開かれた経営からの共育ち～

2022年2月15日にオンライン開催されました2021年度全県経営研究集会の分科会の模様を前号(2022年4月号)でお伝えしましたが、今号では記念講演の概要を掲載します。

記念講演 講師

奥山敏康氏

(株)アイワード 代表取締役社長

一般社団法人 北海道中小企業家同友会

会社概要

【所在地】札幌市中央区北3条東5丁目5-91

【設立】1966年

【資本金】67,185千円

【社員数】240名

【年商】37億2000万円(2021年3月期)

【事業内容】ブック印刷事業／情報処理システム開発事業／
褪色写真復元事業／年賀状事業

指針を策定し、新生の道へ

弊社の前身である共同印刷は1973年12月にボーナスを払えなかったことで経営危機が表面化しました。そこで、当時、北海道同友会事務局に勤務していた、木野口功(後のアイワード社長、現・相談役)に経営再建の白羽の矢が立ったのです。その時は社員20人のうち10人が辞めようとしているような状況でした。理由は、給料が安かったからです。当時の社員24歳の平均給与は3万円でしたが、札幌市内の他の印刷会社の平均は24歳で6万円になる時代でした。この状況を前にして木野口は「給料を倍にしよう!その代わりに12月までに売り上げも倍にする」と決意したのです。掛け声だけではできないので、20名の社員と毎日討議して経営方針をつくり、そこを基準にして、結果的に、その目標と計画を達成することができました。

また、当時の社員の中に聴力に障がいがある青年がおり、その青年への差別がありました。そのことに対して木野口は「彼は好きこのんで耳が聞こえなくなったわけではない。耳が聞こえない点を皆でカバーしていこう」と言い、差別の理由などを何度も話し合い、結果的に差別をしないことが、経営方針に盛り込まれることにもつながっていききました。

再建の道筋が見えた1975年1月、中同協は『中小企業における労使関係の見解』を発表しました。弊社ではそこから5年ごとの中期計画をたてました。

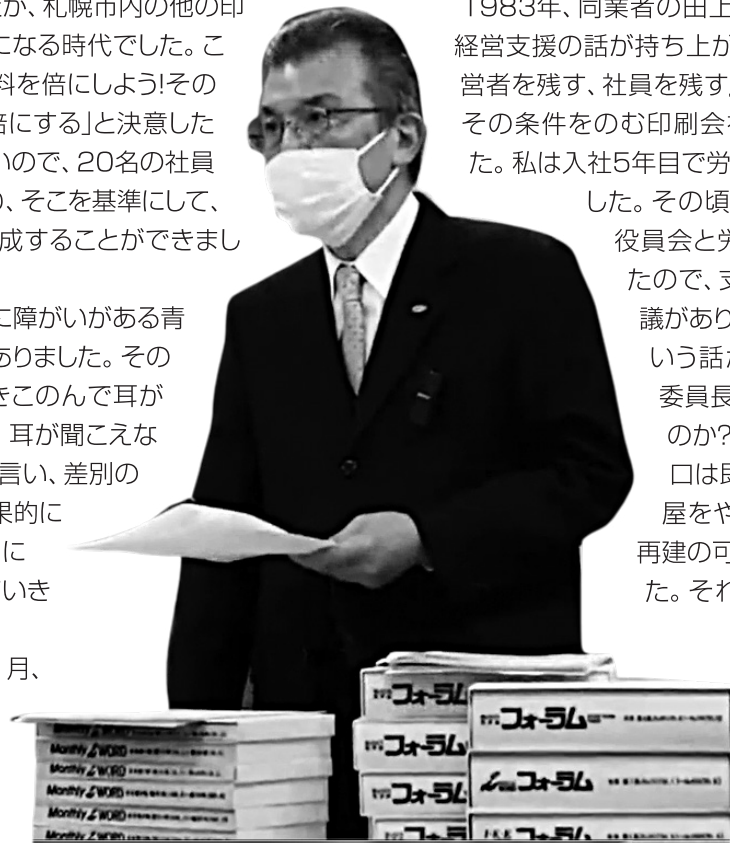
最初は『世間並みの給料を払ってもつづれない会社になろう』という目標でしたが、やがて『北海道の企業の中でもトップグループへ』となり、次の5か年は『全国に通用する企業になろう』と変化していきました。達成しつつ、なんとかここまで来ることができました。

「50%の確率ならやろう!!」

1983年、同業者の田上印刷が経営不振に陥り、経営支援の話が持ち上がりました。『社名を残す、経営者を残す、社員を残す』これが再建の条件でした。その条件をのむ印刷会社はどこもありませんでした。私は入社5年目で労働組合の書記長をしていました。

その頃すでに労使見解に基づき、役員会と労働組合は対等な関係でしたので、支援の話についても事前協議がありました。木野口社長が「こういう話があるのだ」と切り出すと、委員長は「その再建の成算はあるのか?」と問いました。すると木野口は即座に「すすきのでラーメン屋をやったって五分五分。つまり再建の可能性は50%だ」と答えました。それを聞いて「50%の可能性

があるならやろう、組合も協力する」と委員長は言いました。弊社は経営再建10年目のまだ小さい会社でした。38年もの社歴がある





記念講演事前収録時の会社見学の一幕

会社を再建させることは、並大抵のものではありませんでした。

田上印刷はカラー印刷の老舗と言われていましたので、その受注を増やすことはもちろんでしたが、もう一つ、再建の方策として、労働組合をつくるのが再建の近道と考えたのです。私は、朝早くから門前でビラを配り、労働組合の結成を呼びかけました。その中で、田上印刷の人と話をするようになりました。多くの人が「自分たちは、会社が左前になっていくのはわかっていた。でもやめる勇気すらなかった。そんな人間に何かを成すことができるわけない」と言いました。私は「絶対にできる」と訴えました。やがて手伝うという人が現れ、その人たちと何度も話し合いを重ねた結果、「定年延長と経営再建」の二つを掲げ、組合結成へと至ることができました。そこでやっと労使の対等な関係づくりの基盤ができたわけです。

連鎖倒産をさせるわけにはいかない

1994年3月「手形を落とせない」と、切羽つまった話が創業明治40年の興国印刷から、突然持ち込まれました。その当時、私は常務取締役でした。緊急役員会が開かれ、いろいろな角度から協議しました。年間売り上げ25億円。従業員は120名。仮に興国印刷が倒れると下請企業25社が連鎖倒産することが明らかでした。その関連企業の家族を守るとの思いから、再建に乗り出しました。

当時の記録によると「興国印刷はモラルが低い。再建するには、まず意識改革だ」という言葉が、ある社員から出てきました。そういう言葉が社員から出るということは非常に重要です。経営の指標を示さず、民主的な経営が行われないと、こういうことになるということを、弊社の社員も身をもって知ることになりました。

興国印刷の社員はその後、最終的に特別清算という形でアイワードに合流することになりましたが、ある社員はそれまでを振り返り「社会に出てから(興国印刷では)何の教育も受けていなかったことが残念でならない」と記録に残しています。

そのような歴史を乗り越え、アイワードでは相互に意見を交わしたり、高め合ったりできるようになりたいとの思いで、中同協の『中小企業における労使関係の見解』を実直に取り組み続けているのです。

全社員が日報を書き全社員へのフィードバックする活動

1983年にスタートした「日報×フォーラム運動」は現在まで脈々と続いています。社内報を読んだ社員は、感想や意見を自分の日報に書き、情報を共有し業務の見える化をしています。

この日報を始めた当時は70名弱の社員でしたから、全社員が見通せるくらいの感じでした。田上印刷は再建2年後に日報を書き始めています。強制して書かせるのではなく2年間、待つことになったわけです。

当時の記録によると、日報を書くことには二つの意味があると書かれています。一つは、どんなに忙しくても社長はすべての日報に目を通すので、社長へのメッセージという意味があり、またそこには解決しなければならない重要な問題が書かれていることもあるということ。二つ目は一日のまとめを自分の中でするという意味があるということです。

田上印刷の方の日報スタート初日には「書くのは面倒だ」というような記述があります。これに対して「継続は力です。全社員が書き続けることは、会社にとっても、皆さんにとっても将来どんなに大きな力を発揮するかわかりません」と書かれています。この文章を書いたのは当時のフォーラム担当者ですが、この想いは今も生きているのです。

47年前にスタートした民主的な経営

弊社の会社案内では最初のページに経営指針を記載し、社内だけではなく、お客様にも、このようなことを目指す会社だということを繰り返し情報発信しています。最近は女性活躍や障がい者雇用が会社の評価につながる時代になりましたが、弊社は47年前から社員と共に働く歴史を持っています。一部

をご紹介しますと、女性従業員比率は42%、障害者雇用率は8.3%になっています。

弊社の経営方針の実践として3本の柱をたて、その中の一つの「民主的に運営します」という目標については、情報の共有化による開かれた経営と、性による差別や障がいによる差別をしない職場を目指して、そこへ一歩一歩近づく努力をしています。

そもそも差別とは何でしょうか。人間には「人間らしく生きていくために自らをのばしていこう」という本性があります。これをほかの人が阻止する行為、これが差別だと私は学びました。この差別には二つの枠があります。一つは自然的な枠、男か女か、あるいは年齢というようなこと。もう一つは歴史的な枠、どこで生まれたとか、どこの学校を出たかというような枠です。この二つが複合的に絡んで差別行為は起こるのです。差別が大きくなると、戦争になるような悲劇もあり、簡単に扱えるものではないとわかりました。しかし今から47年前、会社を再建しようとした先輩社員たちは、こういった人類規模の課題に立ち向かい、「可能性を伸ばせる会社になろう」ということを議論したからこそ経営方針がしっかりと根付いたのではないかと思います。

47年前、男女の差別をしないことを弊社が決めた時には、ジェンダー平等なんて言葉はありませんでした。長らく日本でも議論されなかった問題が、今や政治的な争点にまで高まってきました、このことに対して、我々中小企業家もどう立ち向かっていくのかと姿勢が問われる時代が来ています。

また、弊社の経営指針はどんな会社を目指すのか、ということを示すと同時に、すべての社員と共通の目的を常に共有しています。そうしないと、指針は形だけのものになってしまいます。さらに社員同士に意思の疎通があり、一人ひとりが一緒に働くという意欲をもつこと。指針を示すだけでなく、生き生きと活用し高めていく、これを社員とともにやっていくことが大事なわけです。

働くことの意味を知り、学ぶことを決める

大学卒業当時、私は就職がなかなか決まりませんでした。「中小企業家同友会に相談に行きなさい」と言われて、そこで木野口との出会いがあり、忘れられない会話を交わしました。

当時、木野口は39歳で、私は22歳でしたが「働くということはどういうことですか?」と問いました。木野口は間髪入れずにこう答えました。「あなたは誰のおかげで学校を出たのですか? 形の上では、親が出してくれたということになるのかもしれない。けれども実際には社会があなたを学生として認めて、体系化した学問を学ぶことができたのです。それを働くことを通して社会にお返しする。これが働くということなのです」。私はそんな考え方があるのかと唖然としました。それまで、初任給はいくらもらえるのかとかそんなことばかり考えている学生でしたが、木野口のこの言葉を聞いて私は働くということはどういうことかを、学ぶと決めたのです。

100年企業を目指して

木野口は実質的な創業者でカリスマ性のある人です。その後継者が自分というのはまったく考えなかったのです。私は、約40年分のフォーラムを読み返しました。田上印刷の社員の成長を2年間も待たされたことや、興国印刷を受け入れる道筋、石狩工場に受け入れて意識改革を行っていく様などの記録を通して、木野口はこう考えていたのだと、その当時の思いを理解することができました。私は、その歴史を皆に伝え、今後どうすればいいのかを相談しながらやっていけば、木野口とは違う経営のやり方にはなるが、会社を維持発展させていくことはできるのではないかと、社長を受けることにしたのです。

現在、弊社は56年目ですが、いずれ100年企業になったときに、「労使関係の見解」に基づいた経営をやっていてよかったと誰もが感じる会社になりたいと強く願っています。その時、真の意味で労使見解を花開かせる時がくるのだと確信しています。(事務局 古川佳子 記)

トピック 埼玉同友会は埼玉県と子供の支援に関する協定を締結しました



写真右：小松君恵代表理事

県内経済6団体の一つとして埼玉同友会は埼玉県と「埼玉県と埼玉県内経済6団体との未来を担う子供たちへの支援に関する協定」を結びました。締結式は3月28日に県庁議室にて行われました。

この協定は、今後埼玉経済を支える宝として、未来を担う子供たちの支援を目的とし、相互に連携し取り組むものです。協定は以下の内容になります。

- ・子ども食堂等の子供の居場所の支援
- ・結婚・子育て支援など少子化対策
- ・生活困窮世帯等の子供への支援
- ・ヤングケアラーの支援
- ・青少年の健全育成の取り組み
- ・フードロス削減を通じた子供の食の支援等

中小企業問題全国研究集会（大分）分科会参加者報告

【2/17(木)～2/18(金)】

「地方発!私たち中小企業家が未来を切り拓け!～誰1人取り残されない社会を創ろう～」をテーマに第52回中小企業問題全国研究集会(略称:全研)がオンラインで開催され、45同友会と中同協から471名の参加がありました。

全8分科会の中から第8分科会の報告を掲載します

地域金融機関は中小企業とともにある ～金融仲介機能の強化に向けて～

報告者: 中村 高明氏(株紀之国屋 会長)
新発田 龍史氏(金融庁監督局銀行 第二課長)

「地域金融機関は中小企業とともにある」というテーマで開催されました。選んだ動機の1つ目は、金融アセスメント法制定はじめ様々な運動を実践されている「中村高明」氏の報告をぜひ聞きたい。2つ目は4月に埼玉中小企業家同友会定時総会の記念講演を予定している森俊彦氏講演についての理解を深め、今後の視座を得たいと考えたからです。

2人の報告から学んだことは、金融機関と中小企業家との相互信頼関係の構築と共通価値の創出にあるということです。銀行は、単純にお金を借りるための「交渉相手」ではなく、「ケア・看顧者・介護者」のように身近で伴走支援してくれる信頼できる「相談相手」としての関係づくりが大事であるということです。

両機関のいい関係づくりを構築していくためには、まず、私たち同友会の「経営指針づくり」運動が重要なキーワードになるということが確認できました。経営者個人連帯保証・根抵当保証ではなく、事業の将来性ビジョンを共有しながら連帯を深めることで地域金融も中小企業家も元気になる仕組みづくりが必要であると確信しました。

「地域金融機関は中小企業とともにある」という第8分科会のテーマでは、金融庁の「ローカルベンチマークシート」や「経営デザインシート」、そして私たちの「経営指針成文化」運動が相まって相乗効果を生み出し、地域課題を事業手法で解決していく先駆的な担い手になっていくことが期待できると感じました。

このコロナ禍において、人口減少社会における中核人財の確保・デジタル化など長期的な視座に立ち、変化の先を見据えた経営課題を両機関で議論し合い、「包括的連携」を育み明るい地域未来を築く「鍵」を得ることができる分科会となりました。

(川口地区会 小松君恵 記)

2023
中同協定時総会
in 埼玉

やるぞ! 全国総会! みんなで前進! オール埼玉!

2023中同協定時総会が埼玉で開催されます。(2023年7月13日(木)～7月14日(金)リアル開催予定)
DOYOUさいたま7・8月合併号からは毎月、定時総会に向けた記事を発信してまいります!
実行委員長が決まりましたので、ご紹介いたします。

実行委員長挨拶

宇梶 純江(大宮南地区会)
〈すみえ社会保険労務士事務所 代表〉



中同協定時総会の実行委員長の大役を仰せつかりました宇梶純江です。当初、この役を受けることで仕事・家庭・地区会&委員会との両立できるか、不安や恐れも正直ありましたが、アイデアがどんどんあふれ出し、「よし、やろう! 私は私の得意なことで貢献しよう!」と覚悟出来ました。2018年の女全交、2021年の障全交、そして2023年の中同協定時総会と6年で全国大会開催3度も経験する埼玉同友会。実行委員の経験は、毎回、自身の新しい扉を開き、また関わるメンバーの成長に寄り添い、高め合う事を身をもって体験することが出来ました。経営者としての総合的な能力が身に付き、自己を高める素晴らしい機会です。

今回が学びと実践の集大成となり埼玉の底力の見せどころ! 小松委員長と共に、皆で魂をひとつにし、中同協定時総会大成功に向けて、音頭を取っていきたいと思います。さあ、一緒に未来の扉を開きましょう!

小松 和人(川口地区会)
〈株こまむく 代表取締役〉



埼玉同友会50年の記念すべき年に開催される中同協定時総会。そこで実行委員長という大役を仰せつかりました、川口地区会の小松和人です。はじめて経験する全国行事の実行委員長ですが、不安は感じておりません。

先の女性経営者全国交流会・障がい者問題全国交流会と過去二度の全国大会で知識と経験を蓄えられた会員の皆様がいることは私にとって大変に心強いことです!

そして次の50年史のスタートとなるこの催しでリーダーとして皆様と関われることに、やりがいと誇りを感じています!

私自身はまだ未熟で至らない点もございますが、皆様のお力をお借りする以上、一生懸命に取り組んで埼玉同友会にとって、会員の皆様にとって、そして自分自身にとって、成長と発展の場になる実りある総会にしていきたいと思います!

2023年に向け!一緒にこの定時総会を盛り上げていきましょう!



◎経営労働委員会オープン学習会 2022年3月25日(金)オンライン開催

「本質と発展」

報告者：
太田 久年氏(株ホウユウ 代表取締役・埼玉同友会代表理事)

3月25日、経営労働委員会オープン学習会がZOOMで行われ、ゲスト5名を含めて67名が参加しました。太田氏ご自身の実践紹介と、人を生かす経営への熱い想いを報告していただきました。「経営指針を作っても実践できない…」私たちには、気づきに満ちた学習会となりました。

1.「不離一体シート」の活用

同友会活動、気づき、会社の变化などを整理していただくで、ぶれない「経営者」づくり、会社の成長が確認できる素晴らしい実践シートです。「経営指針だけ作っても実践できなければだめです」。太田氏の長年の実践事例の紹介には勇気づけられ、感動しました。

2. 経営指針の効果は10年後に

「効果は10年後に判る」という学びから、経営指針を継続されてきたそうです。「経営指針を作ったから、直ぐに効果が出るはずはない。3年計画を3回繰り返し実践し、ようやく10年。」経営理念を見直しながら、社長から、社員に根付

かせていく実践が必要だと、痛感しました。

3. 人を生かす経営を学ぶ

「よい経営者」「よい会社」作りをさらに進めた「よい経営環境」づくりとして、障害者雇用の事業を準備されています。「新規事業は、地域貢献、自分と社員の成長につながる」と、熱い報告でした。「発展とは、規模や売上を増やすことではない。社員と共に、顧客に役立つ、社会に貢献していくこと」という創造的発展の事例を学びました。

太田氏は『人を生かす経営』勉強会の座長として、20回も続けておられます。自主・民主・連帯の精神を学ぶ本質的な問いを共有して、同友会理念=本質に立ち戻って、実践を深めることを繰り返していくことの大切さを実感しました。

熱い報告に続くグループ討議は、「自社の発展をどのように描いていきますか?」をテーマに、各グループでは、「社会の発展のためには…」、「自社を強くするには…」、「経営指針のレベルアップ…」など、大変充実した意見交換ができました。

今回のオープン学習会は、「本質と発展」という難しいテーマを、太田氏の熱い想いが込められた「等身大」の実践紹介から、経験の有無を問わず大変深い学びになりました。同友会の「本質=理念」を見極めて「発展=実践」させていくことは、今日から始められるだけでなく、悩んだ時には、必ず大きな気づきを与えてくれるものだと思います。

(むさし野地区会 志賀 朗 記)

中同協広報委員会

◎中同協広報委員会がオンライン開催

2月22日、中同協広報委員会が開催されました。当委員会は年に2回開催されており、首都圏開催と地方開催が繰り返されてきました。直近の埼玉開催は2017年2月になります。しかしコロナ禍により2020年からはZoomを利用した開催が続いています。

前回の委員会時にコロナ禍回復の兆しがあったこと、またこれまでは西日本からは参加者が多く、東日本から特に関東より北からが少ないという傾向から、ならば「皆で東北に集まろう!」となり、岩手でのリアル開催を予定していたのですが、オミクロンによるまん延防止等重点措置の延長で、結局オンラインでの開催を余儀なくされました。

今回は東北の5県(青森、岩手、秋田、宮城、福井)からの活動報告。各県ともメインとなる活動は広報誌の作成。本誌の発行は年4回だが例会報告は別紙で配布。8ページのフルカラーで毎月発行。経営者が大きく表紙に掲載されるインパクトのある表紙など各県の特徴が現れていました。一方、広報活動への協力者を増やしていきたい、動画配信など新しいメディ

アの活用など、今後取り組むべき課題の多くは埼玉とも共通しているように思います。

続くグループ討議のテーマは①小さな同友会でも取り組める広報活動 ②会員が学べる広報活動。私のグループでは、誰に何を伝えたいのかを明確にしていくべき。ステークホルダー(会員企業、自治体、従業員及びその家族、金融機関、学校)への配信。報道各社との懇談会開催などについて話され、とても参考になる情報を得ることができました。

オプションでは岩手同友会で長年エネルギーシフトを先導されてきた信幸プロテック(株)さんの新社屋からライブ配信。装置や機能だけでなく社員も一体となって築き上げたエネルギーシフトへの実践を伺い知ることができました。

地域が違うと視点や取り組み方も変わります。それを知ることのできる全国規模の集まりはとても貴重な情報交換の場。8月に秋田で開催される次回委員会での再開を約束して退出ボタンクリックで散会となりました。

(中部地区会 矢澤敦臣 記)

—— 埼玉の元気を創る 中小企業家 ——

plusN (大宮南地区会)

埼玉県さいたま市大宮区堀の内町1-220-9

電話 048-641-9944

<https://plus-nutrition.jp/>



スポーツ栄養士になったきっかけ

元々は小嶋氏自身も中・高・大とアルペンスキーをするアスリートでした。思春期に体重増加により成績が振るわずいろいろなダイエットを試し減量に成功しますが、結局成績は伸びず、大学で栄養学を学び、間違っていたダイエット方法に気づきます。スキー競技時代のコーチに、思春期に競技成績が振るわず栄養面でうまくいかなくなるアスリートが多いのでサポートしてほしいと頼まれスポーツ栄養士の道に進みます。

独立開業

実は小嶋氏のご主人は国際資格を持つフィジカルコーチです。そこでまずは、ご主人の屋号を借りてご主人がサポートする選手やチームに栄養に関する相談を始めました。しかし段々と事業が進むにつれていろいろな問題が浮上してきます。(仕事の依頼に対する契約者名は?売上の振込先口座の名義は?アスリート以外の事業展開もしたい等)そんな時に先輩からSAITAMA Smile Womenピッチ2019へ参加を勧められファイナリストまで残りビジネスアイデア賞を受賞します。この参加がきっかけでビジネスプランをブラッシュアップすることができ、いろいろな問題の解決方法として2020年1月に個人事業主として独立開業を果たします。コロナ禍ということもあり、以前から行っていた遠隔サポート(メール・電話・オンライン)が功を奏し、売り上げは増加傾向にありました。

同友会との出会い

SAITAMA Smile Womenピッチ2019のファイナリストには同友会の会員がたくさんいました。最初は川越地区の総会でのオンラインでのやり方を教えるという仕事として同友会にかかわります。その際にグループ討論への参加を促され、レベルの高い討論と経営について肌で感じることができ、次のステップへ進みたい・同友会の皆さんから学びたいという思いから入会に至ります。



経営における「軸」となった経営指針

最初は個人事業主なのでいらないかなと思っていた経営指針でしたが、HPなどで経営理念とかあった方がカッコイイかもと見栄えで参加することに。経営指針セミナーは泊りで行われることも多く、お子さんが3人いる小嶋氏にはハードルが高かったのですが、コロナ禍のためオンライン開催となり無事参加することができました。すべてが初めてで経営自体がわかっておらず、3年後、10年後のビジョンは熱く語れましたが、現実は何をしたらいいのかということになると分からず一歩前に進むのに苦労しました。しかし経営指針ができてからは、仕事を選択する際の「軸」となり、後ろから(3年後・5年後)物事を考えられるようになりました。着実に経営に対する進化のスピードは倍になったと感じ、理念をもとに経営計画をたてる大事さを学びました。

plusNの強み

plusNには主な事業が3つあります。

まず1つめはメインとなるアスリート栄養サポート事業です。スポーツにおけるパフォーマンスをアップするために栄養を管理することはとても大切で、より精度の高いトレーニングを行うために栄養密度の高い食事を最適なタイミングでとれるようにサポートします。チーム栄養サポートや個人アスリート栄養サポートなどがあり、レシピの提供や調理指導まで行います。

2つめはスポーツ栄養に関わるセミナーやプロジェクトの企画・運営・実施する事業、3つめに管理栄養士業務改善に向けたコンサルティング事業があります。

これに加えてフィジカルコーチとの事業提携をしており、フィジカル面でのサポートも可能となります。またフリーランスだからこそアスリートにとって本当に有益で公正な情報が提供できるのも強みです。そしてこのコロナ禍においてすべてが遠隔サポート・オンラインで実施できるスキルを持ち合わせています。

5年後には法人化を目指す

直近3年間は10年後のための財源確保も含めた組織づくりと公認スポーツ栄養士を育てていくための人材育成と確保に力を入れて取り組みたいと思っています。組織については4つの部門に分け、アスリート栄養事業サポート部門を主軸とし、地域づくりのための地域健康部門(栄養士会などと協力して地域の人々の健康管理に繋がる活動をする)、栄養コンサル部門、栄養士の育成部門それぞれに人を配置するのが目標です。そして5年後には法人化を目指しています。

「コロナ禍においてオンラインになったことがむしろ一番自分に合っていた」と話す小嶋氏。今回の取材もオンラインでの取材でしたが、小嶋氏の自信に満ちた話し方に引き込まれ、この人になら任せられると思ったアスリートたちの気持ちがとてもよくわかる取材となりました。(加藤早苗 記)



癒しに囲まれて毎日を生きて! やめられません!!

福島 良雄
 さくら地区会
 熊谷ノーエン
 埼玉県熊谷市本町 1-221
 TEL 048-525-1187



朝、市場でお花の仕入れ風景

“熱いぞ熊谷”の地で花屋『熊谷ノーエン』を経営しています。花・花・花・・・花に囲まれた生活、寝ても、覚めても、花のことで頭がいっぱい花一色の人生です。26歳からこの業界に入り30年以上が経ちました。みなさんは癒しを求め花に接すると思いますが、僕はいつも綺麗な花に囲まれ、癒されながら過ごす毎日が仕事なのです。

そんな僕の『ほっと一息』をお話しさせていただきます。

至福の時

お客様に質問を投げかけるとさまざまな話をしてくれます。時に15分～30分くらい話が止まらないこともしばしば。家族のこと、事業のこと、知らない世界をたくさん知ることができる僕にとっての至福の時であり、気づきを与えてもらう大切な時間でもあります。

健康を意識した日々

食事は朝・昼・晩と嫁の手料理。外食、コンビニ等はほぼありません。月に一回ラーメン・餃子を食べに行くくらい。睡眠は6時間と決め、寝不足・寝過ぎもダメです。

心の清め方

尊敬する先輩が、自社のトイレ掃除をしていると聞き驚きました。従業員がいるのになんでだろう? そこにある価値は何なのだろうか? 試してみると、他の場所の掃除では得られない不思議な気持ち、爽快感を体感しました。それ以来、トイレ掃除は自ら行っています。

僕なりの親孝行の仕方

実家は農家で兄が継いでいますが、家業を手伝えない分、両親に元気な顔を見せることと話し相手を作ることが親孝行かなと思い、月に2～3回は時間を作ります。その帰りにお墓参りに行きお墓の掃除もしてきます。今こうしてココに存在していることへの感謝の気持ちです。

99%ボツ案

週1回、21時過ぎ、ひと気の少なくなる時間帯にサウナに行きます。サウナに入るとは、お風呂に入り、繰り返すこと3時間。その日によって汗の出方が違うので、健康チェックをおこなったりしています。

常に仕事のことで頭がいっぱいなので、サウナに入っているときは何も考えない、頭を空にして無になる時間を作ります。そして、たっぷり汗をかいた後にお風呂に浸かり、湯舟の中では仕事のアイデアを捻ります。そこで生まれたアイデアを自宅に帰り嫁に話すと、99%の確率でダメ出しされボツ案となります。僕の性格を見抜いている嫁を僕は信頼しています。そして1%の合格したアイデアを実行に移しています。

今回のほっと一息のお話を機会に、趣味を作ろうと思いました。さて、どんな趣味を見つけよう・・・わくわくしてきました。

さくら地区会伝統の一つである「年に一度、大切な人に感謝の気持ちを乗せてお花を届けよう!」があります。80名を超える会員数を受け持ち、心の伝書鳩として奮闘してくださっている福島さん。常に自分にできることは何かないかと心を配る姿が印象的でした。

知っておきたいお花の豆知識

- 1 目的: お祝い? お見舞い? お悔み?
- 2 渡す人のイメージ: 性別、年齢、好みの色、好きな花
- 3 花束作成中にイメージと違っていた場合: ハサミを入れる前なら変更可能なので遠慮なく言う。ハサミが入ってしまうと変更は難しい
- 4 予算: 法人様の胡蝶蘭ご利用価格は2～3万円が相場
(さくら地区会 水野純子 記)

各地区会で開催された例会をご紹介します。

【大宮ブロック 3月例会】

バラで幸せと健康を実現する 女性社長のブランド戦略に学ぶ

報告者：田中綾華氏（ROSE LABO株式会社 代表取締役）



『食べられるバラを通して美しく・健康に・幸せに』という経営理念を掲げ、一貫した想いが1本の映画のようにストーリー性を持ち、これに関係ない事はやらないというぶれない軸をもって経営にあたる田中氏。コロナ禍で売上が75%減になり、あと2ヶ月この状況が続くと、経営困難に陥ることが想定される中でもその理念を崩さず、新商品の開発と、販売方法の変更で危機を乗り越えられたという田中社長の判断力、決断力、行動力がとても印象に残りました。

ブランドを確立するためには「機能的価値」「情緒的価値」「未来的価値」この3つが揃って、初めてブランドになるそうで、重要性が高く緊急性が低いものが、ブランド確立の原石になるそうです。その原石を磨き、発信していかないと意味がないと考え、行政や企業が主催するビジネスコンテスト等に挑戦。そこでの受賞がメディアに注目され、更なる発信や全国的なブランド認知度UPにつながったとの事でした。

マーケティングでは、商品だけではなく会社ごと好きになってもらうように、農園体験やファンミーティング、SNSでの配信などに力を入れていて「ITの時代だけど、最終的には人と人との繋がりが一番大切」と語ります。

今回の報告から参加者の多くが、自社のこだわりや強みを再確認し、ユーザーからの意見を吸い上げ、発信していく事の重要性を感じたことと思います。

（大宮南地区会 清水小百里 記）

【東部地区会 3月例会】

中小企業が戦える武器(ビジョン)を持つために ～外部環境の変化に負けない会社づくり～

報告者：藤森正信氏（株明和 代表取締役）



激変する外部環境の中、私たち中小企業経営者が「経営を維持し発展させ続けるために」、どのように会社づくりをしていけばよいか、たくさんのヒントが得られました。

10年先の社会がどうなっているか?ではなく、10年先の社会をどのようにしたいか?と考える発想の転換と、自社事業の

社会的使命を認識することが特に重要だと感じました。

また、10年ビジョンを掲げた後、いかにして社員を巻き込

み、新たに最適なビジネスパートナーを見つければよいか等、同友会ならではの経営実践報告となりました。

「10年後の社会を良くしたい」と本気で考える経営者の思いこそ、外部環境に負けず、地域社会から必要とされる会社づくりに必要な要素ではないかと強く感じた例会となりました。

（三浦智和 記）

【彩北地区会 3月例会】

障害者実習生を受け入れて気づかされたこと ～共生社会を目指す上で必要とされる課題と解決策を見出そう～

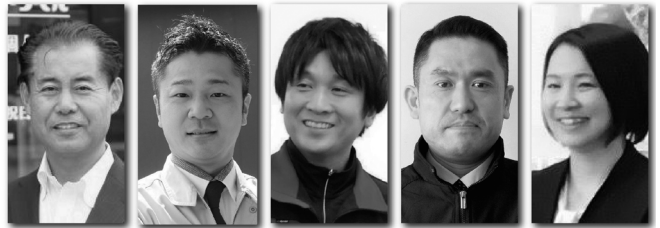
報告者：田部井広明氏（米米トラベル 代表）

林 俊治氏（株林塗装工業所 取締役製造部長）

田邊弘栄氏（株キットセイコー 代表取締役）

山崎貴胤氏（羽生ふじ高等学園 進路指導主事）

田中桂子氏（大宮ろう学園 進路指導部）



彩北地区会の3月例会は、様々な方の出会いと繋がり、協力を得て開催に至りました。

埼玉同友会で初めて、地区例会にて特別支援学校見学会を開催するなど障害者雇用に関しては力を入れてきた彩北地区会ですが、今回は、彩北メンバー3名が実際に実習生を受け入れ感じた事の報告や、ご協力頂いた先生方の意見を頂戴するなど、とても有意義な例会になりました。

印象に残ったのは、実際に受け入れをしたメンバーの感想とし『受け入れる前と受け入れた後』の思いは皆一緒で、『また受け入れる機会があれば受け入れたい』とのこと。実習最終日には名残惜しむメンバーや、実習生のひた向きな姿勢を見て、受け入れ前に想定していた以上の実務にチャレンジして貰ったなど、実習生が一生懸命に学ぼうと努力し、実際に学んでくれたという報告が非常に印象的でした。

もちろん、実習生それぞれの個性も有り、課題も少なからずある実習ではあった様ですが、実習生本人から『チャレンジする機会を与えてくれた感謝』、親御さんや先生方から『自信をつけてくれた感謝』といった事も印象的であり、皆が活躍できる場所を造る必要性や大切さも学べる素晴らしい例会になったと思います。

共に学び、地域に役立つがモットーの同友会らしい企画で有り、今後も新たな発見や学びの場を設けていきたいと思いました。

（岡 雅英 記）

埼玉中小企業家同友会 2021年度第7回理事会議事録

《2021年度スローガン》 今こそ本質を見極め「人を生かす経営」の総合実践を
～同友会の優位性を発揮し激変する経営環境に立ち向かおう～

report

◆日時: 2022年3月11日(金) 18:30 ~ 20:30

◆議事録署名者: 奥津副代表理事

◆会場: Web会議 (Zoom)

◆議事録作成者: 清水事務局長

◆司会・議長: 菊永副代表理事

・太田代表理事挨拶

本日の理事会が今年度の最後の理事会になります。今年度の理事会も大変高い出席率でした。また、皆勤の方も多く感謝申し上げます。本日は東日本大震災の日です。早11年が過ぎましたが未だ行方不明の方もいらっしゃいます。一人ひとりが主役の人間尊重の同友会としては心痛みます。心よりご冥福をお祈りいたします。先月末からのロシアのウクライナ侵攻は決してあってはならないことです。同友会の三つの目的にもあるように平和であることが前提の上で中小企業は経営できるのです。この度、中同協のホームページの最初にこの平和を守るための中同協の広浜会長の談話が出ています。皆さんご覧ください。本日の理事会では次年度の議案の協議・審議があります。しっかりと読み込んで承認していただけますようお願いいたします。

議事(審議事項・協議事項・報告承認事項・連絡事項)

審議事項

1. 承認第49回定時総会について(報告者: 正副代表理事、事務局)

第49回定時総会を2022年4月23日(土)にWeb会議(Zoom)で開催する。菊永副代表理事が設営から次第、記念講演まで説明した後、各議案を理事会にて審議し承認となり総会提案議案となった。

(1) 次第・記念講演・参加登録状況について: 菊永副代表理事

(2) 議案書について

- ・2021年度活動総括(案): 小松代表理事(総会説明者)
- ・2022年度活動方針(案): 太田代表理事(総会説明者)
- ・2022年度監査・予算(案): 小林理事(総会説明者)
- ・2022年度組織図(案): 奥津副代表理事(総会説明者)
- ・2022年度役員名簿(案): 奥津副代表理事(総会説明者)
- ・2022年度活動スケジュール(案): 事務局 清水

2. 承認 埼玉同友会長期ビジョン各部門骨子について(吉田副代表理事)

各部門のスローガン及び骨子が完成した。今回迄の成文化については他県の例等はあまり参考にせず参加者が自ら主体になって各部会共に意見を出し合って完成したことが報告された。その後、部会長が各部門の内容・経緯を発表し、補足説明、質疑応答を実施した。現在のスローガンの内容説明、骨子の語尾等、各部門が修正を図り、統一した形にしていく。骨子の中身も各部門検討していく。本日以降、加筆修正を図り、メンバーリストで再確認していくが、定時総会で今回のスローガン、骨子案を発表することについては審議し承認された。

◆企業づくり

【スローガン】: 一人ひとりが色を放ち輝く企業

◆地域づくり

【スローガン】: 我々は地域にタネを蒔き 花を咲かせ 豊かな社会を实らせませす

◆同友会づくり

【スローガン】: つなぐ力・育む力 フロントランナーとして埼玉から日本の未来を切り拓く!

報告事項

1. 政策委員会報告(米山政策委員長)

2022年1～3月の景況調査を回答期限(3/7)で実施した。目標287筆、回収146筆と前回の理事会時点での厳しい状況からは改善された。今回の調査では特別質問としてインボイス制度についての項目を加えた。結果としてはインボイス登録申請をした20%、未申請80%。また、実際に自社がインボイス制度を導入できるかとの問いには「出来る」が70%、「いいえ」が30%とのことだった。埼玉同友会としてはこれまで沼田中同協財務委員長の講義等を実施してきたが実際にスタートすると大きな影響がでるだろうと予測される。今回の調査は自社にとっての影響を見つめなおすきっかけとなったのではないかと。景況調査の詳しい分析は追って報告する。

2. 理事・理事候補者役員研修会について(横山副代表理事)

2022年度理事候補者研修会を3月25日(金)16時から17時55分にオンラインで開催する。申し込み状況は多くの参加者が見込まれる地区があるものの未だ参加登録がない地区がある。また、次年度初めて理事になる方の参加

が少ないように見受けられる。ぜひとも同友会運動で実績のある方の報告を聞き、他地区の役員とグループ討論で見解を深めていただきたい。そして理事としての心構え等も学んで深めるためにも年度末の忙しい時だけがぜひとも都合をつけて参加していただきたい。

3. 2023年中同協第55回定時総会in埼玉について

(奥津副代表理事・宇梶・小松(和)実行委員長)

小松(和)実行委員長より進捗状況として最初に両実行委員長をフォローするために幹事長に大宮南地区の上坂氏が就任することの報告があった。また実行委員会準備会では本格稼働する上で埼玉同友会としての開催意義・キャッチコピーを明確にすること等も報告された。続いて宇梶実行委員長より組織他についての報告があった。4月県総会までに開催意義、組織、役割の明確化等、スピードをもって協議している。16分科会、1100名参加で開催予定の定時総会では、現在すでに手を挙げている方を念頭に組織のリーダー・サブリーダー候補の調整をしている。合わせて実行委員の方も継続募集していく。その際に自身の経験から実際に定時総会で役割を担うことで経営者にとって総合的な能力が身に付くことは間違いないのではないかと報告があった。

【キャッチコピー(更新予定)】

やるぞ! 全国総会! みんなで前進! オール埼玉!

・日程: 2023年7月13日(木)～7月14日(金)リアル開催予定

4. 全県経営研究会実行委員会報告(古川事務局主任)

2月28日に2021年度全研の総括会議を開催(参加者32名)。参加登録者392名、収支は前回の理事会より支出が5305円増だが概ね予測通り。実行委員会総括としては8分科会ともに良い内容だった。多くの分科会を開催したがそれぞれPR動画等を作成出来たことは大きな成果だったと思われる。楽曲の提供の菊永氏(むさしの地区会)、動画のマニュアル提供の山崎氏(東部地区会)等には大変感謝している。次年度の全研設営はむさしの地区会からリアル開催、4分科会350名規模で実施する設営案(現時点)が提案された。懇親会は着席160名の予定。

5. 中同協 新型コロナウイルスに関する第10次緊急要望・提言について

(小松代表理事)

国、行政に向けて中同協として以下の緊急要望提言を実施した。

①PCR体制の構築 ②新型コロナウイルス感染症特別貸付の延長 ③金融機関に向けての中小企業支援 ④雇調金の延長 ⑤飲食業等企業支援 ⑥資材高騰における価格転嫁促進 ⑦社会保険料の減免 ⑧インボイス制度の凍結 ⑨事業復活支援金の拡大

6. 委員会より(菊永副代表理事)

・広報情報化委員会(齊藤委員長)

2022年度の広報情報化委員、ホームページ(HP)担当の方の選出のお願い。

次年度は今年度と変わり地区として選出して頂く方は広報情報化委員、HP担当者の2名ではなく1名でも可とする。HPについては①フリー投稿スペースの新設②中同協定時総会特集等も加える。詳しくは「広報情報化委員HPご担当者選出のお願い」を確認していただきたい。

・経営労働委員会(満生委員長)

2022年度経営指針セミナーの応募について。

3月14日から申し込みを受け付ける予定だったが現段階で仮申し込みの方が多数で当初定員をオーバーする予測。そこで2022年度の受講生の数を修正して30名迄とする。また、応募、受付期間も3月末までに前倒しする。また、受講生増に伴い、スタッフ経験者に参加を促していく。

7. その他

・今年度で退任される方のご紹介と事務局職員の退職挨拶を実施。

・副代表理事1名・地区会長名・地区選出理事名・委員長名

・事務局職員定年退職報告 2022年4月20日付 辻 菊江

新たな辞書の1ページ 新入会員紹介 (2/1~)



田島陽平
 (株)キュアクオリティ
 さくら地区会
 鍼灸、接骨院の運営



更科元樹
 (株)SSマツハ
 東彩地区会
 建築金物製造。主に金属板をシャーリング、タレパン、ベンダー等の大型機械にて加工、成形までの加工業



成田敏廣
 (株)充実ライフ
 さくら地区会
 介護関係デイサービス2ヶ所、有料老人ホーム2ヶ所、居宅介護支援1ヶ所



大石懐子
 codience
 川越地区会
 小・中学生向けプログラミング、サイエンス教育、女性のデジタル人材、DX人材育成、STEMスポーツ



川村 匡平
 もったいないボランティアプロジェクト
 川口地区会
 皆様から寄付頂いたもの一部を、日本国内の就労支援事業所様、支援学校様に作業委託をし、仕分け、高塗りやリメイク等を行っていたことで就労支援・自立支援につなげています。



長島洋平
 (株)長島養豚
 北部地区会
 畜産物の生産加工販売、畜産飼料の加工販売、建築の設計施工、産業廃棄物収集運搬



小滝真一
 やきとり こねこ
 むさし野地区会
 やきとりのテイクアウト、カラオケレンタル(1日、月借)、HP・動画作成等PC全般



大滝真悟
 (株)大滝建設
 川越地区会
 大工工事、土木工事

● 会員information

《社名・住所・役職・HP変更》

浦和地区会 カンパニユラ経営労務研究所
 都築大介会員
 社会保険労務士法人きらり 営業顧問へ
 〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和
 1-5-2 Mビル2F
<https://sr-kirari.jp>

《役職変更》

川越地区会 (株)鈴木薬局 鈴木達弥会員
 相談役へ

《住所変更》

川口地区会 (株)レグリンク 上原秀教会員
 〒115-0045 東京都北区赤羽2-69-2
 千秀ビル7F

《HP変更》

川越地区会 下村信子社会保険労務士事務所
 下村信子会員
<https://shimomura-office.jp>へ

● 同友会日誌 3月1日~31日

- 1日(火) 大宮東幹事会、川口幹事会、川越幹事会
西部幹事会、大宮南幹事会
- 2日(水) 浦和幹事会、埼玉葛幹事会、戸田・蕨幹事会
中部幹事会、むさし野幹事会、浦和问题解決談議
- 3日(木) 大宮中央幹事会、東部幹事会、北部幹事会
- 4日(金) 正副代表理事会議、仕事づくり委員会
- 7日(月) 人を生かす経営勉強会、東彩幹事会、さくら幹事会
彩北幹事会
- 8日(火) 共同求人委員会、障害者雇用推進委員会
大宮ブロック会議
- 9日(水) 広報情報化委員会
- 10日(木) 経営労働委員会、学べる経営労働委員会
- 11日(金) 正副代表理事会議、理事会
- 14日(月) ファム幹事会・ミニ報告会
- 15日(火) 新入会員オリエンテーション、川越例会、川口地区会
- 16日(水) むさし野例会、浦和例会
- 17日(木) 戸田・蕨例会、東部例会、
- 18日(金) 合同企業説明会、中部例会
- 22日(火) 長期ビジョン検討会、さくら例会、社員教育委員会
北部例会、東彩例会、
- 23日(水) 大宮ブロック(大宮東、大宮中央、大宮南)例会
- 24日(木) 全研実行委員会
- 25日(金) 理事候補者・理事研修会
経営労働委員会オープン学習会
- 26日(土) 埼玉葛例会
- 28日(月) 政策委員会、むさし野正副連絡会、青年部例会
- 29日(火) ファム・障害者雇用推進委員会合同オープン学習会
- 30日(水) 青年部幹事会

◆ 訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

東部地区会 山本佳子会員のご母堂がご逝去されました。

会員数

2022年4月11日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	58	大 宮 南	78	北 部	32
戸 田・蕨	47	西 部	41	さ くら	90
浦 和	72	むさし野	91	川 越	85
大 宮 東	39	東 部	128	東 彩	60
大宮中央	33	中 部	47	彩 北	17
		埼 葛	47	計	965

編集後記

コピーライターでスタートし、商品サービスの企画や開発にかかわって25年あまり。阪神大震災、地下鉄サリン、9.11、リーマンショック、東日本大震災、コロナ禍、インフレそして戦争という有為転変のさなかにいる。2020年に幼なじみのいる同友会に入会した不思議。経営者の同志として今をともに生きる清々しさが心地よい。商品サービスで社会を良くしたい。世界を平和にしたいと本気で考えている。なぜならこの21世紀になっても歴史に学ぶことなく、人が人を傷つけている。中小企業から世界を変えよう。「出会えて良かった」と記憶してもらえる企業を目指し、人生後半を邁進したい。

(むさし野地区会 古崎千穂 記)

夢を実現するために少しずつ確実に歩んでいます



「夢を実現するために少しずつ確実に歩んでいます」



山崎浩一

やまざきこういち

(株)山水花園
代表取締役
川越地区会
比企郡川島町出丸本53
TEL 049-291-0325

■子供のころから花が身近に

坂戸市で生まれ育った山崎さん。ご実家はお花屋さんを6店舗ほど経営されていました。子供のころから花が身近にあり、忙しい時には家業のお手伝いもしていた山崎さんはフラワーアレンジメントの専門学校を卒業されました。そして都内の生花販売業の会社に就職して社会人としての第一歩を踏み出されました。

■会社を設立して

山崎さんは13年ほど前に生花販売の会社を退職して、川島町で山水花園を設立しました。会社の業務は市場から仕入れた花を加工しての卸売業です。しかしながら、花は季節による繁忙期と閑散期の差が激しく、繁忙期には徹夜も当たり前で、閑散期には仕事が激減します。このような状況では中々社員は定着しませんでした。そこで山崎さんは閑散期の仕事になればと、新規事業として葬祭用の生花を5年前にスタートさせました。

■同友会との出会い

この葬祭用の生花事業が山崎さんと同友会を結びつけました。新規事業の立ち上げの経緯を見込まれて、山崎さんは埼玉県のよろず支援相談で新規事業立ち上げの講師を頼られました。そこで同じく講師を依頼されていた川越地区会員の清水真里さんと知り合い、その清水さんに誘われて、同友会に入会しました。山崎さんは同



友会に入っすぐに経営指針づくりセミナーを受講しました。そこで経営理念や経営計画を学んだ事により、社員さんやパートさんの事や事業戦略の事も考えるようになったそうです。今までは繁忙期にのみがむしゃらに働いただけでしたが、経営改革を進めて就業規則を整え、社員の人数も増やしました。その結果、利益率は下がりましたが、社員やパートの仕事量を適正な所まで抑えることが出来るようになり、従業員が喜んで働けるような職場環境を整える事ができました。



■今後の事業展開

同友会で経営指針セミナーを受講している時に、山水花園のご近所のイチゴ農家が高齢を理由に廃業することになりました。その話を聞いた山崎さんは町役場の紹介を受けて、そのイチゴ農家の施設を借りて300坪程の広さでイチゴ栽培を始めました。そしてそのイチゴ栽培を本格的化するため、経営指針セミナー受講終了後、作成した経営指針や経営計画書を県の農政局に持ち込みました。そしてその経営計画が認められて新規就農支援施設から社労士や税理士等が派遣され、新規に農業法人を設立することになりました。(山水農園)。イチゴは6月まで収穫7月末～8月まで土を消毒。その後肥料をまいて9月には新しい苗を植える。秋口にミツバチを使って業者に頼んで受粉する。といったサイクルなので花の閑散期にほぼ合わせる事が出来ます。これにより従業員の仕事を、年間を通して、フラットに出来る効果も期待できます。

■今後の夢

山崎さんの今後の夢はジェラート屋を開業する事です。イチゴ以外にも果物の栽培を拡張させて自家製の原材料から作るジェラートです。その夢はまだまだ遠いですが、夢に向かって確実に一歩一歩、歩まれています。

何事にも前向きに取り組む山崎さんは、自身の夢だけでなく従業員の職場環境の改善を進めて、山水花園も今年から本格稼働する山水農園も大きく成功させるだろうと感じました。

(川越地区会 小田 明記)

埼玉同友会 広報情報化委員

- | | | | | | | |
|--------------------|--------------------|-----------|-----------|----------|-----------------|----------------|
| ●委員長●
東 彩 齊藤壽和 | 戸田・藤 石井孝徳 | 大森靖之 | 村里忠輔 | 小川洋一 | 彩 北 江田雅之 | ●制作担当●
杉込博久 |
| ●副委員長●
川 越 小田 明 | ●委 員 ●
川 口 福井千波 | 大宮東 柴田大智 | むさし野 古崎千穂 | 中 部 中山晴喜 | ●印刷・製本●
加藤早苗 | ●事務局●
古川佳子 |
| 埼 葛 松本賢二 | 山本佳奈子 | 大宮南 加藤早苗 | 東 部 鈴木一朗 | 埼 葛 今村達郎 | ●事務局●
水野純子 | 古川佳子 |
| 中 部 矢澤敦臣 | 戸田・藤 木村亮介 | 高橋浩明 | 宇野碧留 | 北 部 東禎章 | ●事務局●
遠藤裕行 | (順不同・敬称略) |
| | 浦 和 三友哲哉 | 西 部 綱川めぐみ | 藤元天美 | さくら 水野純子 | | |
| | | | 島袋輝仁 | | | |